

## Ⅵ 小学校教育を見通した幼児期の学びの在り方と 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 ～幼小接続推進力～

子どもは、園・所で友達や保育者と遊びを通して成長し、幼児期の教育を終えて小学校に就学していきます。小学校入学後に、子ども一人一人が十分に力が発揮できるよう、小学校以降の生活や学びを見通して教育を行うことが必要です。

本章では、小学校教育を見通した幼児期の保育の展開についてまとめています。また、「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」に共通して示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5歳児になって突然に現れるものではありません。3歳児から5歳児までに見られる姿として示し、その姿に至るまでの発達過程をイメージできるようにしています。

# 小学校教育を見通した幼児期の学びの在り方と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」～幼小接続推進力～

## 小学校教育を見通した幼児期の学びの在り方と接続期の実践事例

### 今求められる幼小接続の方向性とは

幼児教育と小学校教育を比較してみると、子どもの生活や教育の在り方は異なっています。しかし、子どもの育ちはもとより、「学ぶ」という行為はつながっています。幼児教育と小学校教育の教育内容や指導方法の相違点・共通点を理解し合っていくことが求められています。

小学校学習指導要領において、「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。」と示されています。幼児期に遊びを通して育まれてきたことを各教科等での学習につなげていくことが求められているのです。

そのためには、就学前教育の中で、子どもたちがどのように成長し、学びを深めているかを理解し、小学校に発信していくことが重要です。

### 実践事例 大和高田市

市内研修の工夫

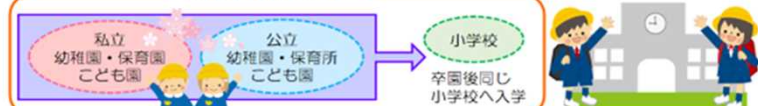
教員がつながれば、子どももつながる

(提案者)  
大和高田市

市内で行う幼小接続研修の対象者を広げた。学校教育課が中心となり保育課と連携したり、私立園に研修の意図や大切さを伝えたりし、市内の就学前教員と小学校教員が共に学び合う研修とした。(就学前指導主事、小学校指導主事も参加)

**取組の目的、意図**  
市内には公立私立合わせて23の就学前施設があり、そこから市内8小学校へ入学する。そこで、それぞれの園所における子どもたちの生活や活動、学びを理解し合い、就学前と小学校がつながる為に出来ることを考えた。

なぜなら・・・ みんな「高田っ子」



研修方法の工夫!



研修は講演だけでなく、校区やブロック別のグループワークを入れました。  
**Point 1**  
会話が弾みます!

**Point 2**  
園生活の一場面における学びの読み取り。五領域、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』から小学校の教科等へとつなげました。

研修内容の工夫!



☆成功のカギは・・・

研修会毎にアンケートを取り、就学前・小学校教員の「したいこと」「困り感」などを把握し、次の研修内容に生かしています。  
「遊びの中の学びが、分かりづらい」という小学校教員の声を受けて、研修内容を考えました。

- 二人で読み取りをし合っています。
- 一人は二を頼る様子、一人は本をみる様子と役割を分担して進めています。
- 読む順番も入れたいといふ声も出ています。

【遊びから学びを読み取る】

成果

- 本市では、あまり交流がなかった小学校と公立保育所や私立園の教員が交流をもてる研修の場となった。
- 小学校教員・・・ 遊びの中には教科書のない学びがあることを知れた!
- 就学前教員・・・ 幼児期に培った力が小学校での学びに、つながっていることを研修で実感できた!



## 実践事例 生駒市

私立保育園と公立幼稚園交流

### 地域の中でのつながりが、安心感へ

(提案者)  
社会福祉法人豊栄福祉会  
いちぶちどり保育園

地域主催の雪まつりにともに参加し、遊びを通して関わりをもったことがきっかけとなり、私立保育園・公立幼稚園がつながった。平成29年度よりモデル地域に指定され、保幼小接続事業の取組が本格的に行われることになった。

#### POINT!

##### ☆交流を行うまでの保育園としての課題☆

- 登園時間に差があること
- いろいろな小学校に就学すること
- 交流活動に応じて給食時間等の調整が必要なこと

##### ☆園として行ったこと☆

- ◎参観前、送迎時などに保護者に交流時間までに登園することを伝え、協力を求めた。
- ◎小学校との交流を通して、小学校の場に慣れるなど、交流の意義を保護者に啓発した。
- ◎無理のないスケジュールで交流計画を立てた。
- ◎それぞれの施設の特徴を活かした交流の内容を考えた。

##### ☆成果☆

- ・交流を深めることで子ども同士が顔見知りとなり不安なく、自信をもって就学できるようになった。
- ・小学校を身近に感じ、期待感や安心感をもてた。
- ・保護者にとっても小学校との交流活動が就学に対しての不安解消につながった。

##### 保育園での交流



##### 交流を深めることで

- ・一緒に遊ぶ姿が見られ主体的に遊びが広がる様子が見られた。
- ・お互い刺激を受け合い意欲的に取り組む姿が見られるようになった。

##### 結果

- ・同地域の友達と関わり、安心感をもちながら就学への意欲を高められた。
- ・小学校での学びに繋がる共通した遊びを一緒に楽しむことができた。
- ・保幼小交流に刺激をうけ、近隣の保育園とも交流をもつ、きっかけとなった。

同じき分地域の保育園の子どもたちとも交流  
「また、遊ぼうね!」



私立保育園+公立幼稚園

地域の小学校との交流

地域の協力を得て、つながっていくことで保護者、子どもたちの不安が解消された。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

就学前の教育が、小学校以降の生活や学習の基礎の形成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすることが重要です。

創造的な思考の基礎を培うため、子どもが出合う様々な事柄に対して、したいという意欲を大切にし、うまくいかなくても諦めず、更に考え工夫していくことができるように援助します。主体的な態度の基礎を培うため、物事に積極的に取り組み、自分なりに生活をつくっていくことができるように援助します。これらの活動を通して、子どもに「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」が育っていくことが期待できます。

子どもが発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」で捉え、日々の教育・保育を展開していくことが必要なことです。また、これらの姿は、5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけではなく、それぞれの時期から、乳幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要があります。



# 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の発達過程

## 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

## 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

## 協同性

友達と関わる中で、互いの思いやりや考えなど共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたりの工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

## 道徳性・規範意識の芽生え

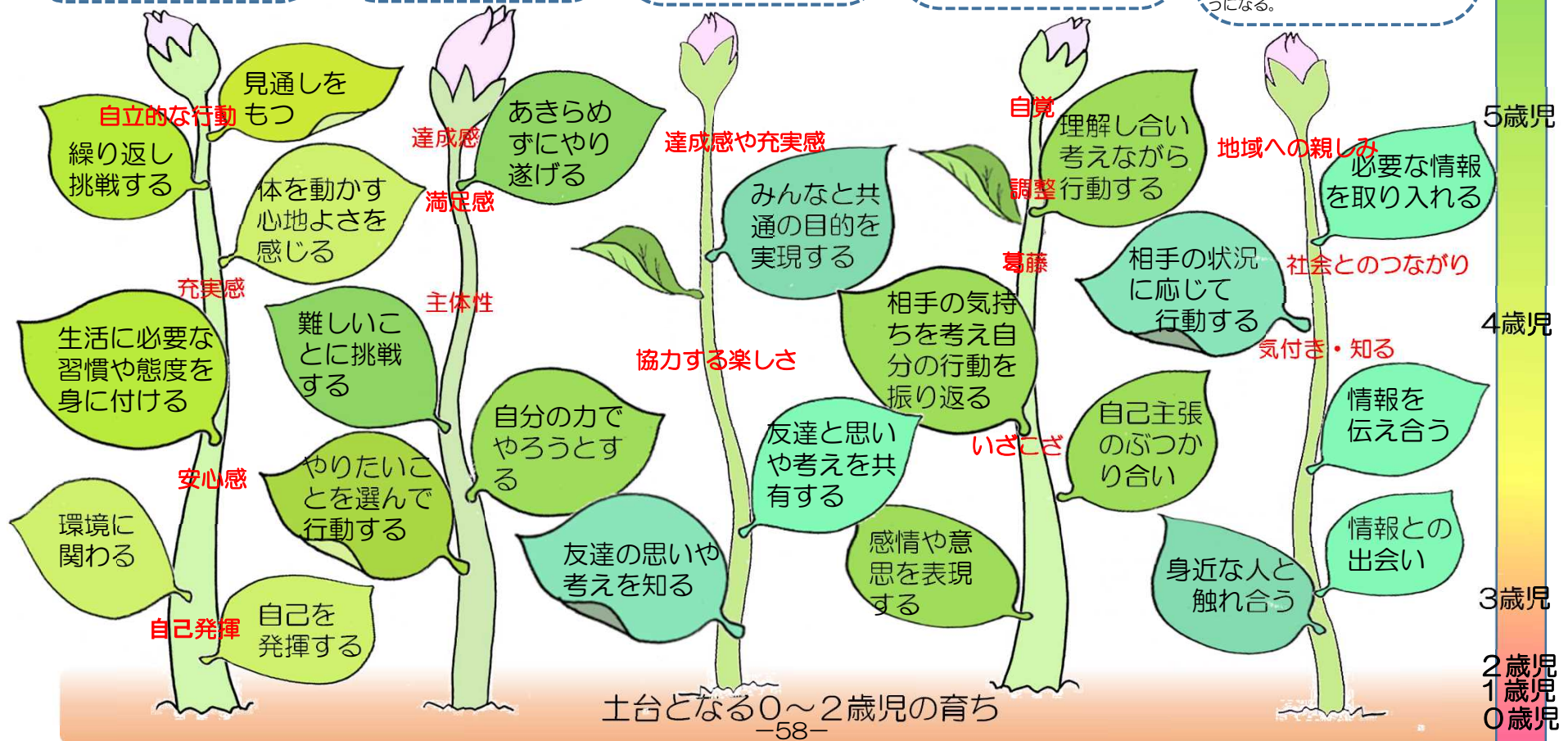
友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

## 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりを意識するようになる。

小学校

幼児期の  
終わり



「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」と同様に「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」も、5歳児に突然見られるようになるものではなく、子どもが発達していく方向を意識してそれぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねることが必要です。

思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考え方を生み出す喜びを味わいながら、自分の考え方をよりよいものにするようになる。

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちをもって関わるようになる。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

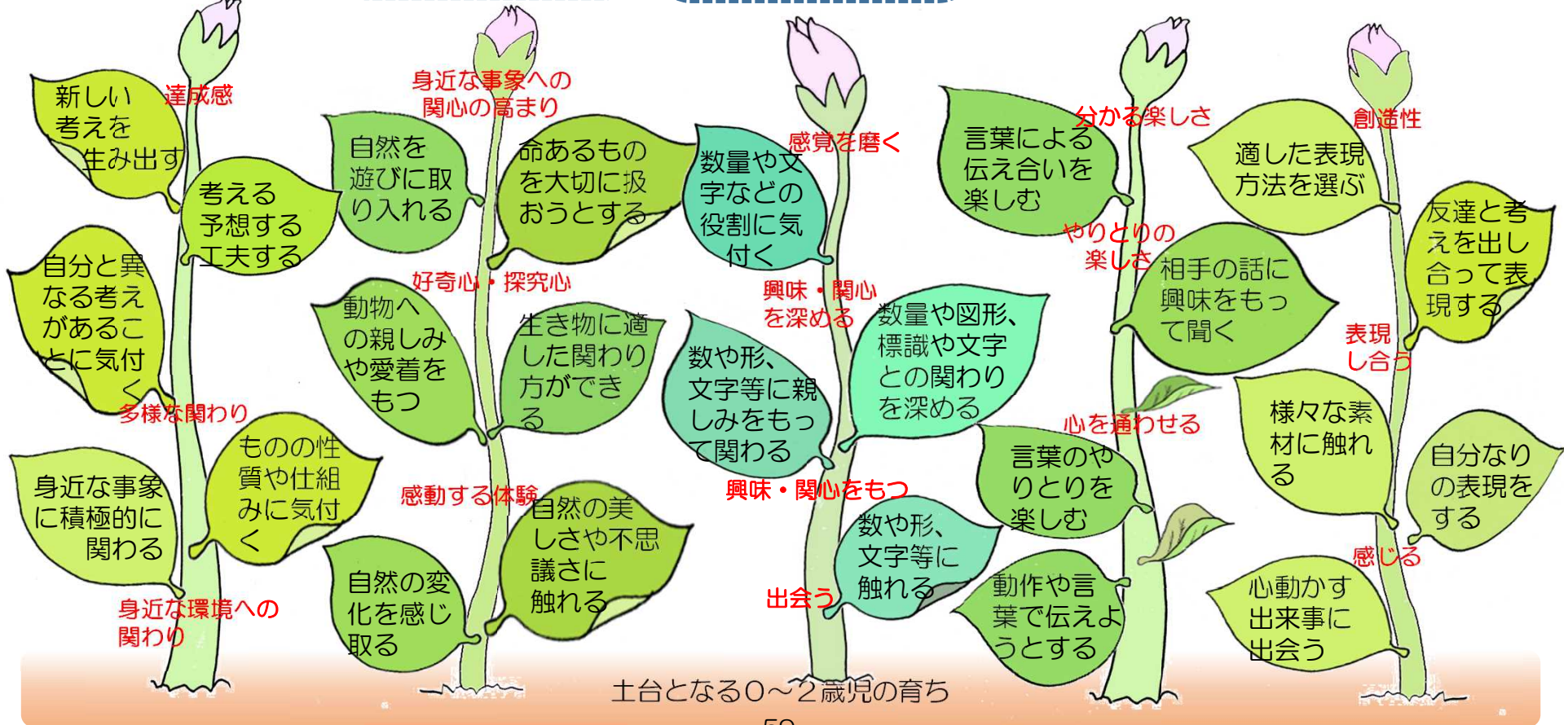
遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を動かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



奈良県版就学前教育プログラム  
～はばたくなら～

平成31年3月発行

奈良県地域振興部教育振興課

奈良県福祉医療部こども・女性局子育て支援課

奈良県立教育研究所